

令和3年4月15日

保護者の皆様

千葉市立稲毛高等学校・附属中学校
校長 伊澤 浩 二

地震・津波に備えた対策及び大規模地震時の対応について

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、お礼申し上げます。

首都圏においては、近い将来、大規模地震が高い確率で発生すると言われており、本市においても被害想定がされています。本校では、非常時に備えた対応を下記のとおりとしておりますので、内容をご確認ください。

記

1 学校における日常の地震・津波対策

- (1) 学校施設の安全点検
定期的な校舎の安全点検の実施、転倒物・重量物等の転倒防止対策 等
- (2) 学校施設設備の状況の確認
- (3) 生活用水、防火用水の確保
- (4) 防災地図（ハザードマップ）等による地域の実態把握
通学路や地域の危険箇所の把握、学区の災害リスクの把握、広域避難場所までの経路の確認 等

2 避難訓練・防災教育の充実

- (1) 避難訓練
 - ①年間を通して教育課程の中に位置付け、児童生徒が目的を理解しながら実施
 - ②通常の避難訓練に加え、避難場所や経路を考慮した訓練等、より実践的な訓練の実施
- (2) 防災教育
 - ①各教科、道徳、特別活動、総合的な探求の時間等学校教育活動全体を通し、防災教育を実施
 - ②避難訓練を通して、適切な状況判断力と冷静な行動力の定着

3 大規模地震時の初期対応

- (1) 生徒の在校中に地震が発生した場合
 - ①安全確保行動（活動場所で身を守る行動）
 - ②避難場所への移動（「おさない」「かけない」「しゃべらない」「もどらない」）
 - ③判断 情報をもとに、「下校」、「校内待機」等、判断する。
- (2) 生徒の登下校中に地震が発生した場合
 - ①看板、家屋の外壁、高いビルの窓ガラスなど落下物から身を守る。（安全確保行動）
 - ②登下校中に地震が発生した場合には、原則として、学校に向かう（戻る）こととする。
 - ③登下校中でも、学校よりも明らかに自宅に近い場合や、途中で他の学校・公民館等の避難場所がある場合などは、学校ではなく自宅や避難場所に避難する。
 - ④地震発生時や直後には危険な場所には近づかない。（余震が起こることを想定して行動）